

令和 4 年 10月31日

## 出張報告書

津山市議会議員 竹内靖人 ( )

下記のとおり出張しましたので、報告します。

### 記

1. 出張期間 令和 4 年 7月11日(月) ~ 令和 4 年 7月12日(火)

2. 出張先 及び 説明員

□ 京都府船井郡京丹波町院内北側

株式会社 京都誠志郎農園 代表 西森 強 氏

3. 出張内容

□ 第一種農用地を活用したハウス栽培による農業振興について

4. 視察内容

・ イチゴ及びトマト温室による周年栽培について

まず、西森氏は私の近隣(津山市福井地内)に近年移住をしてこられた人であるが、当時、全国各地の建設工事現場に資材供給や現場管理に携わっていた。

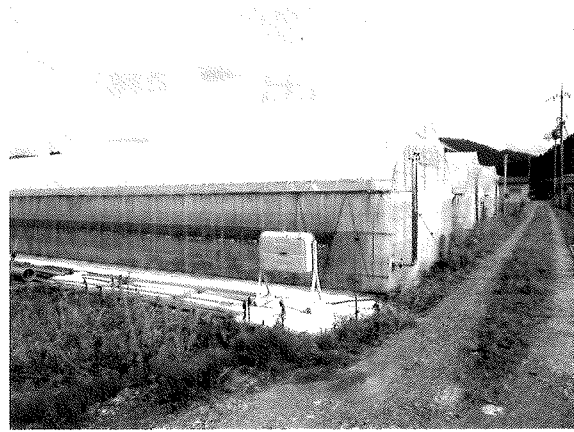
津山市に移住後、早期退職、新規就農・農業参入を目指し土地を探していたが、めぼしい物件(ハウス用土地)は見つけられなかったようである。

そんなおり、以前の勤務先関係者より当該地で農業従事はどうかとの提案があり、さらには、空き農地の購入等に際しては当該役場・地区JAの他、地区内の京都縦貫自動車道S、A売店や道の駅出品関係者等の協力により新規就農者資格の獲得、農地購入ができたと聞き及んだ。

「京都誠志郎農園」の西森代表は、ハウス6棟(幅6m×延長30m、50m)によりミニトマト・トマト数種類とイチゴ数種類を主体に年間を通して商品出荷が行えるように苗の定植時期をずらすなど工夫をし独自(フランチャイズ式)のハウス農業を展開されている。



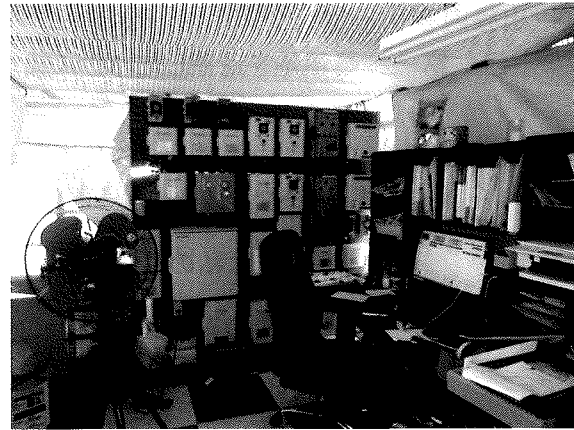
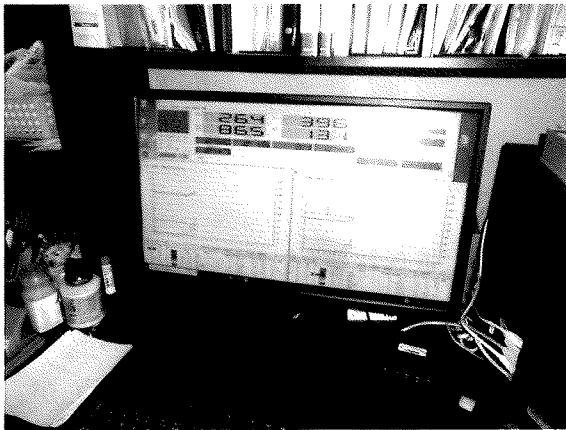
〈トマト用温室 6\*30m 〉



〈イチゴ用温室 6\*50m 〉

(※ 品目により収穫期・定植期があり、出荷が出来ない時もある。)

- イチゴ・トマト共に、ハウス内の環境、栽培管理は常時コンピューターにより管理栽培(ハウス内気温・CO2・肥料(液肥)等集中管理は許可方式。)されており、新規就農者においても比較的取組やすいとのことである。



〈コンピューター管理システムの様子〉

なお、西森氏においても当初ハウス1棟(ハウス本体・栽培管理システム他)約600万円から始められているが、現在、就農3年目を迎えハウスは6棟にまで増棟されています。また、「誠志郎農園」ブランドも定着し、また、京都縦貫道SAや、道の駅への出荷は「お土産」購入によるリピーター客、また、「目と鼻の先」ともいえる京阪神、京都・大阪など大市場の販路開拓も徐々に進め、出荷の安定化に取り組まれている。

- ハウス増棟には資金調達に苦勞をしたそうですが、当初のイチゴから商品のブランド化に取組み、出荷先や売上の安定が見込まれつつあり、目標はハウス9棟だそ

うです。



トマト用温室にて

#### 視察雑感

□ ハウス栽培による農業参入と聞き及び現地視察を申し入れたが、全くの素人としての新規就農には場所の選定が難しかったとの事でしたが、移住先(津山市福井地内)には想定をしていた土地が無く、会社勤め時代の情報が役に立ち、現在地である京丹波を選定、その際、ハウス用農地や出荷先なども地域の関係者が協力体制を整える中、農地購入・資金調達、出荷商品のブランド化への取組、マーケティングなど、条件が整いハウス農業への新規就農となったとの事でした。

ハウス農業への新規参入は、地域農業の振興施策の一助と考えられますが、初期投資への壁、栽培作物の選定や販路開拓、など、簡単ではありません。また、通年出荷は少量多品種か、相当量少品種が考えられますが、ハウス農業にあっても企業的体制を整えるには、作業員数と労働配分など、別の課題もあると聞き、更に調査研究が必要である。



〈奥行き30mのトマト用ハウス〉

令和 4 年 11 月 30 日

## 出張報告書

津山市議会議員 竹内 靖人

下記のとおり出張しましたので、報告します。

### 記

1. 出張期間 令和 4 年 10 月 28 日(金) ～ 令和 4 年 10 月 29 日(火)
2. 出張先及び説明員
  - 香川県土庄町
    - 土庄町役場 土庄町長 岡野 能之 氏
    - 土庄町議会議長 高橋 正博 氏
    - 土庄町教育庁 港 育広 氏
3. 出張内容
  - 土庄町長、土庄町議会（議長）表敬訪問
  - 歴史友好都市について意見交換
4. 視察内容
  - 令和 6 年（2025）には歴史友好都市縁組締結から 40 周年となる。  
この事について両市町において記念事業について検討をする必要があると思うが、時期をみながら情報交換を進めていく必要について提案をさせていただいた。
  - 土庄町スポーツ少年団と津山市スポーツ少年団は、歴史友好都市縁組みの縁を繋ぐ活動の一環として、隔年毎に交流を行っており、コロナ禍の影響で、津山市への訪問が延期になり、2 年度にわたり滞ってきた。令和 4 年度は津山市の受け入れ年であるが、来津について検討をしていただきたい旨、提案をさせていただいた。
  - 歴史友好 30 周年の際は、津山より松の植樹をしていたが、その後の状況について現地視察を行った。
5. 今後について
  - 歴史友好の交流については両市町において情報交換を行い、周年事業にふさわしい事業について検討していく必要がある。

令和 5 年 1 月 30日

## 出張報告書

津山市議会議員 竹内靖人

下記のとおり出張しましたので、報告します。

### 記

1. 出張期間 令和 5 年 1 月 20 日(金) ~~令和 5 年 1 月 21 日(土)~~

2. 出張先 及び 説明員

島根県津和野町

フォレストエナジー(株)

地域エネルギー・アドバイザー

久保 睦夫 氏

3. 出張内容

津和野フォレストエネジー発電所の稼働状況 及び

木質バイオマス(ガス化)発電所の視察及び状況について

4. 視察内容及び今後について

今年度稼働開始した津和野町フォレストエナジー発電所の木質バイオマス発電所の稼働状況及等について視察、説明を受けた。

津和野町のフォレストエナジー(株)の発電プラントは、木質チップのガス化による発電を行っている。

・バイオマス発電の計画のコンセプトは、「サステイナブルコミュニティ」を目指した小型バイオマス発電の可能性とうかがった。

・担当の久保氏(元津和野町職員)は、津和野町の土地分布・森林資源量から見た地域に見合ったエネルギー基地としての発電所計画として建設に関わられたとの事であり、計画から資金調達、原料供給の仕組、施設の建設、運転管理と継続的

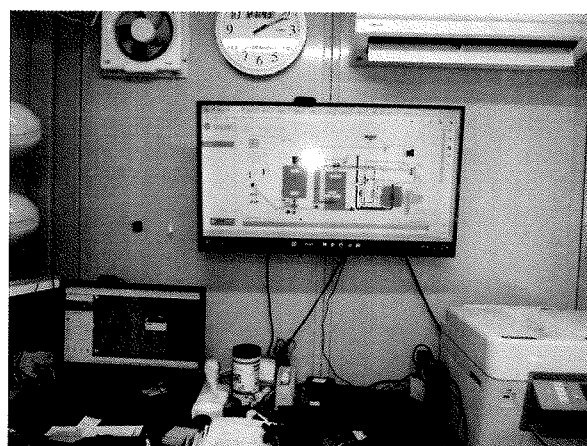
に関わられとの事であった。

- ・まちの森林や環境保護の観点からも取り組まれた事業であろうと感じたが、町・県・国を巻き込んだ事業であり、一職員として取り組まれたことに感心をし、また、このような一定の期間をもって完成に持ち込まれた行政の姿勢にも感心をさせられた。
- ・今後、津山市においてもバイオマスによる地域エネルギーの供給は、地域産業の推進は元より、災害時におけるエネルギー確保にも繋がり、それぞれの地域に見合った取組について民間企業等とタイアップし研究・推進をしていく必要があるのではなかろうか。

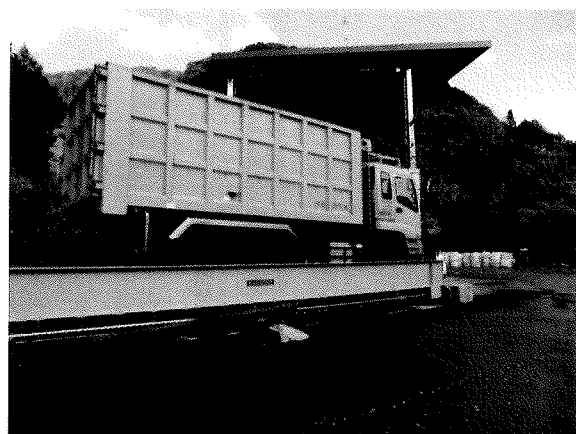
#### 【視察写真】



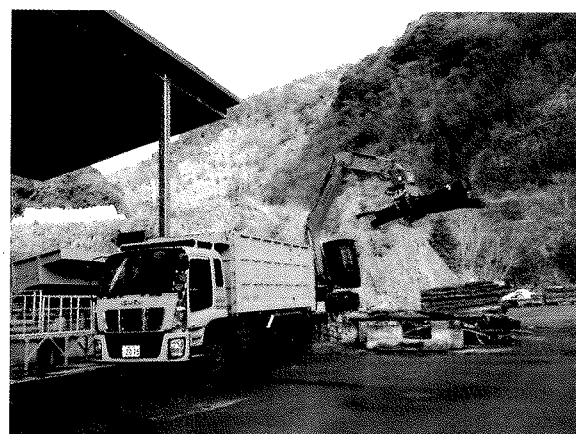
施設管理室にて



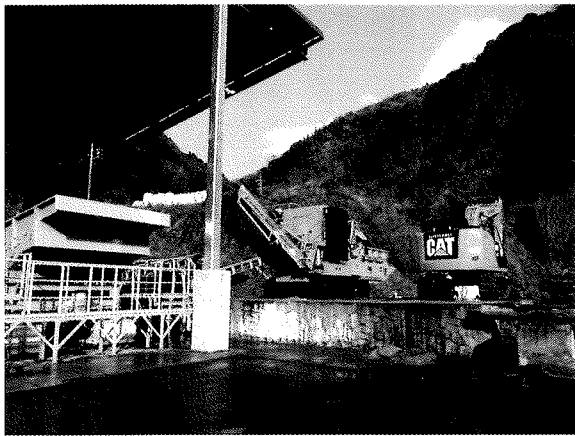
各機器の運転監視状況パネル



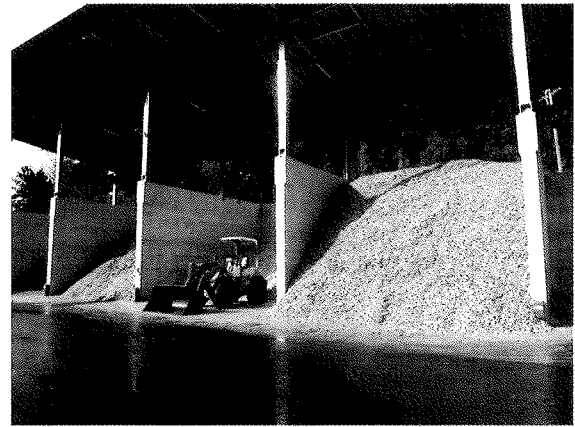
原料搬入量測定台



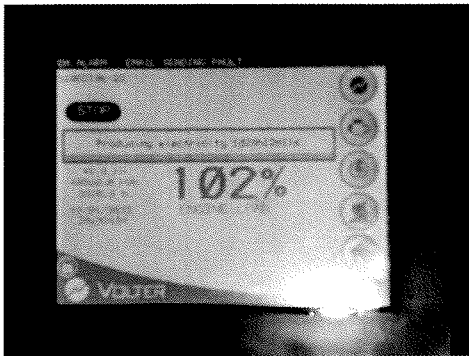
原料積卸状況



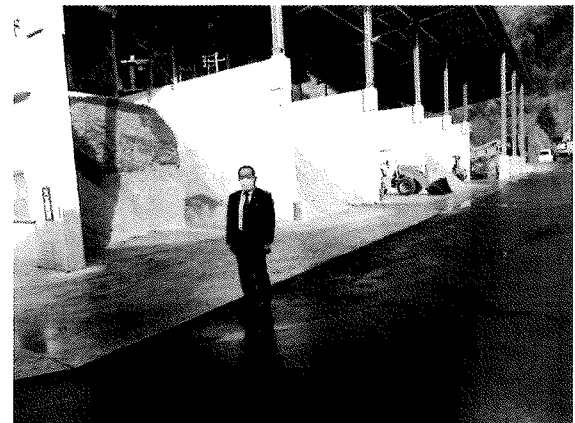
原料木材：チップ製造用チップパー



チップ堆積ヤード（津和野町施設）



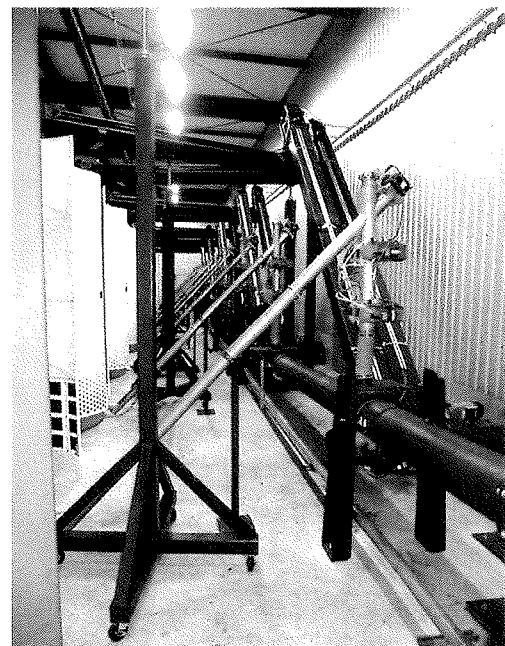
各ボイラー運転状況表示盤



チップヤード前にて



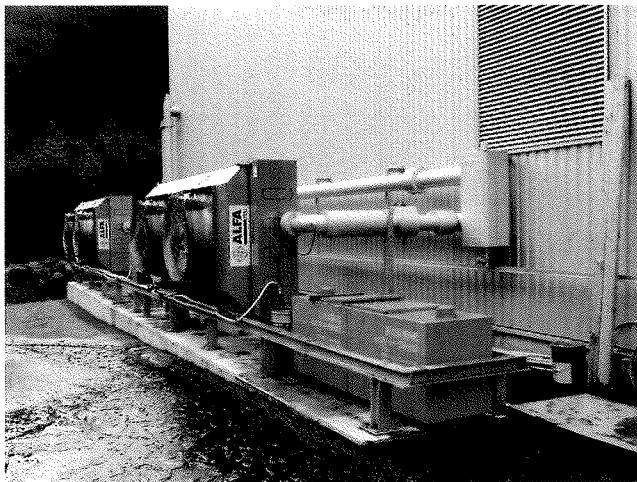
づらりと並んだボルター発電施設



発電機裏側の原料供給部



発電用エンジン部



チップ乾燥部裏側